

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県

●地域における現状・課題

- ・県南部東部を中心に、人口5,000人以下の町村が13（1町、12村）あり、地域の実情や課題等も多く、議論が進めることが難しい市町村も散見される。
- ・受益者負担への理解を進めることの難しさがあり、県としても生徒、保護者、地域への情報発信が不十分な点もある。
- ・多くの市町村において、地域スポーツクラブ活動での指導者確保に苦労している。

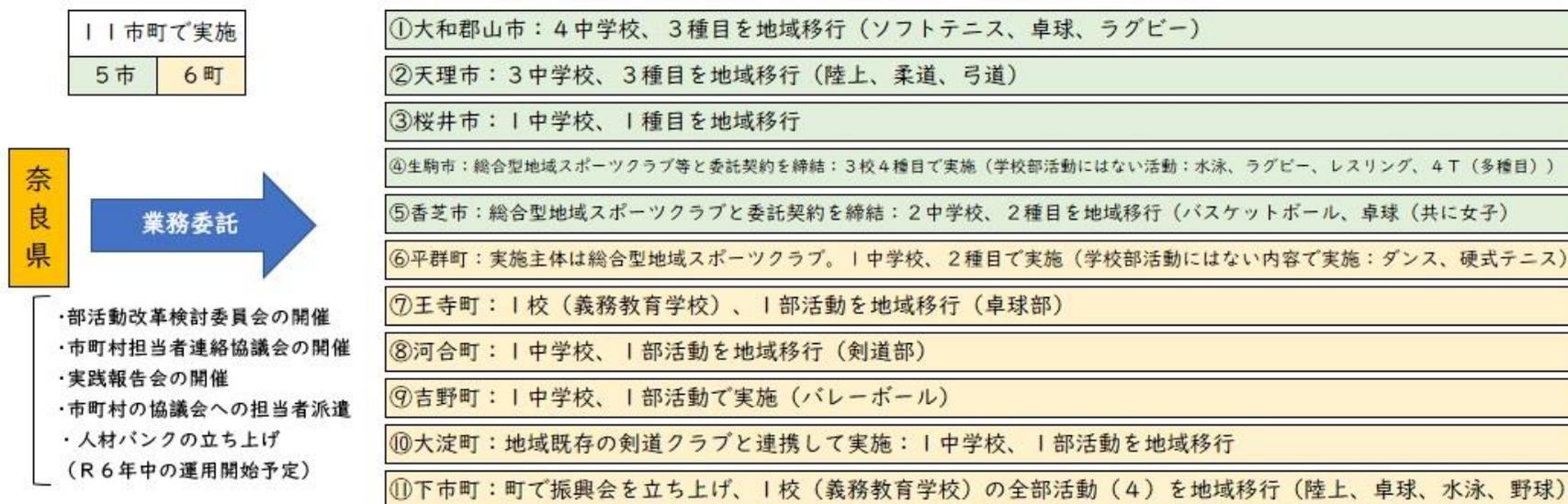
●取組事項の概要

- ・11の市町と業務委託して実施。県立学校では未実施。
- ・部活動改革検討委員会を開催し、「（仮称）奈良県中学校部活動の地域クラブ活動への移行の手引き」を策定。（令和5年度内に発出予定）
- ・全市町村対象の推進連絡協議会（9月）や、実証事業の報告会（1月）を実施し、実証事業事業未実施の市町村への情報提供。
- ・人材バンク設営に向けた取組。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・昨年度の県事業所管課の担当者（中学校籍指導主事）を2名にすることで、前年度に未実施の内容にも取り組むことができた。（部活動改革検討委員会の開催（地域移行に係る手引き書の策定、事業実施市町村の訪問、市町村単位で実施される協議会への担当者派遣業務等）
- ・地域移行の取組実績のある企業（他府県でクラブ活動の実施主体として活動中）とアドバイザー業務の委託契約を締結し、市町村の協議会などでの講演を実施。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県大和郡山市

●地域における現状・課題

本市でも生徒数減少に伴い、野球やラグビー等、市内または市外の学校と、合同チームとして活動する部活動、部員減少により、新入部員の募集停止や廃部せざるを得ない部活動が出てきておりました。

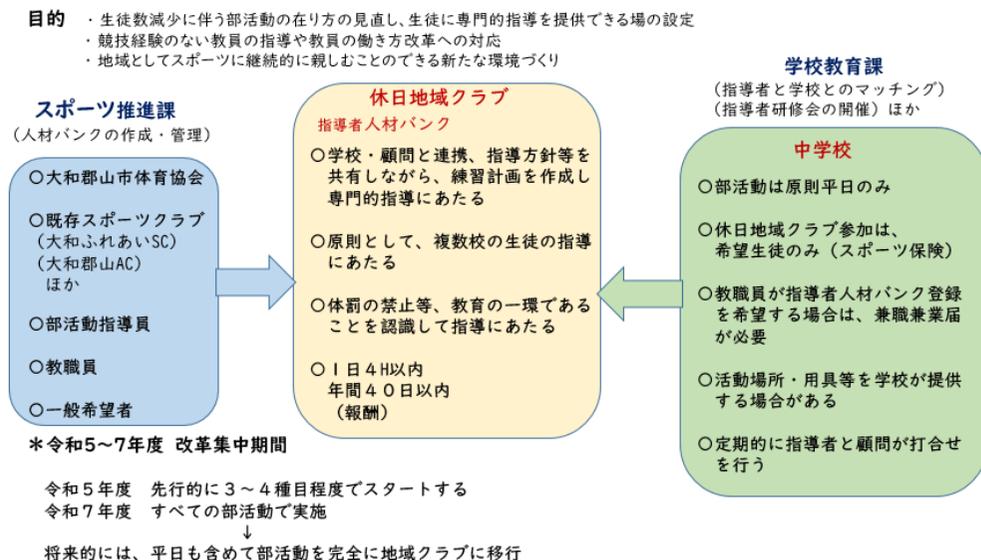
●取組事項の概要

本市の地域移行は「生徒数減少に伴う部活動の在り方の見直し、生徒に専門的指導を提供できる場の設定」、「競技経験のない教員の指導や教員の働き方改革への対応」、「地域としてスポーツに継続的に親しむことのできる新たな環境づくり」を目的としております。休日地域クラブ活動として、指導者人材バンクの指導員に、「学校・顧問と連携、指導方針等を共有しながら、練習計画を作成し、専門的指導にあたっていただく」「募集は市内5中学全員に行い、指導員は複数校の生徒の指導にあたる」「教育の一環と認識して指導にあたっていただく」「休日の活動のため、1日3時間以内、年間40日に以内」としております。

●取組の成果、特に工夫した点等

令和5～7年を改革集中期間とし、令和5年度は先行的に3種目でスタート、令和7年度にすべての部活動での実施を目標に、将来的には平日も含めて部活動を完全に地域スポーツに移行できればと考えております。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市町村運営型 地域団体・人材活用型
- (2) 運営主体：大和郡山市
- (3) 種目：ソフトテニス、卓球、ラグビー
- (4) 指導者の主な属性：スポーツ指導経験者、教員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：約3～4回
- (6) 主な活動場所：中学校、公民館体育館
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車、保護者による送迎
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：受益者負担なし
- (9) 1人あたりの保険料：生徒800円
指導者1,200円/1,850円
(年齢区分による)

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県天理市

●地域における現状・課題

- ・市内4中学校に運動部は30ある。3中学校8部活に部活動指導員を配置しているが、多くの部活動で顧問教員の尽力により成り立っている。
- ・課題は、①中学生を受け入れ可能な団体が存在するのか。②指導者は学校教員の兼業兼職も考慮しても足りないであろうこと。
- ③部活動の受け皿団体をどうするのか。④指導者謝金と受益者負担。その他、保険加入・公式戦の参加など。

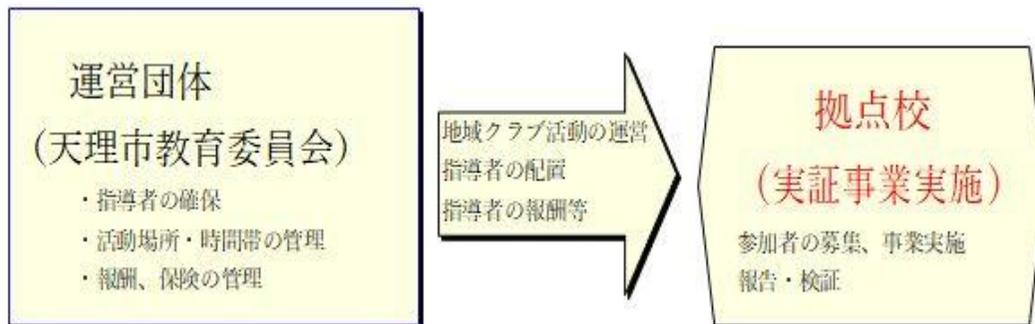
●取組事項の概要

- ・事業の運営主体は、市教育委員会が担い、中学校校長会と相談し、部活動指導員や外部指導者による指導が行われている部活動で実証事業を行った。
- ・市内4中学校すべてで実証事業を実施（運動部活動3中学校、文化部活動1校）し、各校で地域移行について周知した。
- ・保護者への費用負担は求めず、生徒・指導者が加入したスポーツ安全保険の保険料は運営主体である市が負担した。
- ・取り組みについて、指導者学校部活動顧問、参加生徒、参加生徒の保護者にアンケートをとり、今後の地域移行を進めるうえでの参考資料とした。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・地域移行について、具体的な方向性が定まっていない段階での実施のため、各校で無理のない形で実施できるよう、とくに費用負担についての配慮は行った。
- ・専門的な知識、技能を持つ指導者による指導を行い、充実した活動ができた。アンケートからも専門的な指導を受けることへの生徒や保護者の期待は大きい。
- ・地域指導者と学校部活動顧問の連携についてはグループチャット等のツールを活用して行われていたが、保護者連絡の方法などは検討していく必要がある。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：天理市教育委員会
- (3) 種目：陸上競技、弓道
- (4) 指導者の主な属性：部活動指導員、部活動顧問教員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月2回程度
- (6) 主な活動場所：南中学校
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：なし
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県桜井市

●地域における現状・課題

- ・学校単独で大会に参加できる競技が減り、合同チームが増えている。
- ・十分な指導をすることができる部活動指導員の確保が必要である。
- ・地域クラブとして運営していく受け皿が確立されていない。

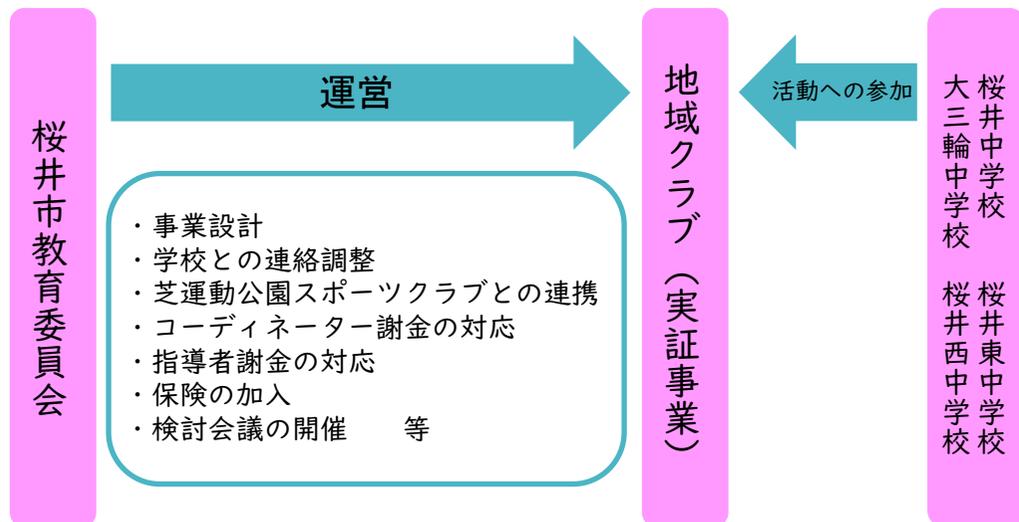
●取組事項の概要

- ・関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
- ・指導者の質の保証・量の確保
- ・学校施設の活用

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・総括コーディネーターとして、総合型地域スポーツクラブとの連携がとれる、中学校で校長をされていた方に依頼。地域関係団体等との連絡や調整等、スムーズに進んだ。また、先進事例のピックアップと検証し、本市との共通点や相違点等の分析を行った。
- ・教員に指導を希望するかを確認したことで、専門的な指導ができる指導者の量の確保ができた。
- ・学校施設を利用することで、施設利用料の支出や他団体との施設の利用調整をする必要がなかった。また、市内4中学校の休日の部活動による運動場の使用状況を事前に確認し、十分に活動できた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：桜井市教育委員会
- (3) 種目：軟式野球
- (4) 指導者の主な属性：教員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：4回
- (6) 主な活動場所：桜井市立桜井中学校 運動場
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県生駒市

●地域における現状・課題

- ・生駒市における中学校部活動の参加者割合は、生徒数に対して部活動参加者は8割以上の学校が多い。
- ・南北に細長く、中部に主要駅が集中しているため、北部南部の中学校においては、生徒数が少なく、希望する種目の部活動で団体種目では人数が足りなかったり、種目が無い学校もある。

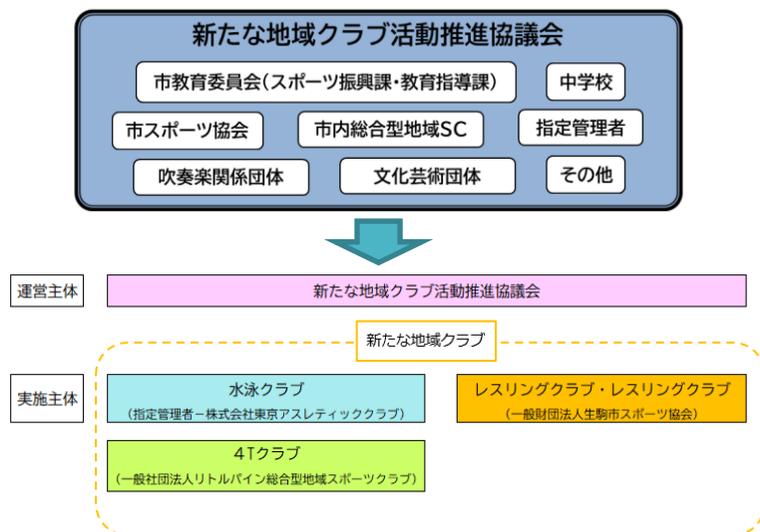
●取組事項の概要

- ・部活の地域移行を見据えた際に、多種多様なスポーツへの選択、また子どもたちを受け入れられる基盤を作るため、中学校にはない種目の展開
- ・地域移行にあたり、起こり得る子どもたちのスポーツ離れを見越し、定期的な運動の機会を得られるよう、多種目が体験できる活動の展開
- ・市内の社会体育施設屋内温水プールで、中学校の部活動で活動中の水泳クラブをオフシーズンも活動できるように施設の指定管理者による活動の展開

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・ラグビー、レスリングの二つの種目を社会体育施設を利用し、小学生で終わってしまうことが多かった二つの活動を行ったことで、選択肢を広げる糸口となった。
- ・多種目多世代多志向多様性を受け入れる4Tクラブの活動で、普段運動が苦手で行いにくい子どもが、保護者などと一緒に活動できることで、運動の機会を得た。また、単発の活動のため、普段の活動に追加で新たな種目を体験することで、一種目に偏らない体づくりや分銅不測の解消につながる。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：地域スポーツ団体運営型
- (2) 運営主体：スポーツ協会・指定管理者・総合型地域スポーツクラブ
- (3) 種目：水泳・レスリング・ラグビー・4T（多種目）
- (4) 指導者の主な属性：実施団体所属または所定の指導者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：全てのクラブにおいて月2回程度
- (6) 主な活動場所：市内社会体育施設・中学校体育館
- (7) 主な移動手段：現地集合
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：12,000円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒1,000円／指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県香芝市

●地域における現状・課題

現時点では、市内の中学校において活動に支障の出るような部員数とはなっていないが、今後は生徒数の減少、またそれに伴う教員数の減少が予想されることから、部活動数の削減を検討している学校もあり、地域クラブ活動への移行と拠点校方式での運用の両面から、持続可能な方法について検討を重ねている。学校教育活動における「部活動の意義」の有効性についての声もあり、地域移行についての否定的な意見も一定数あるため、生徒・保護者や教員の理解を得て進める必要がある。

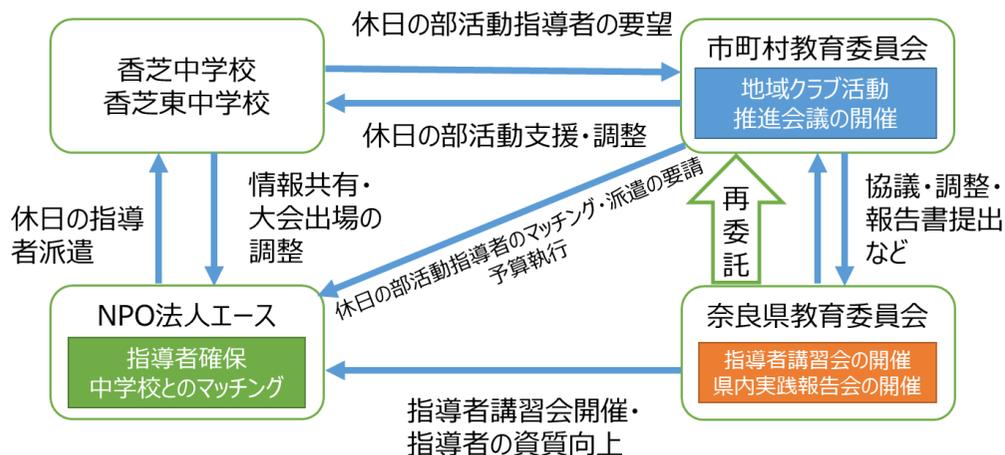
●取組事項の概要

派遣指導者に関しては、教員の意見も取り入れ、生徒や保護者に受け入れてもらえるような人材をと、委託業者と打ち合わせを重ねた。例えば、上達したいという生徒の期待に応えるため、実績のある専門性の高い人材を探してもらったり、女子の部活動なので女性の指導者を優先的に探してもらったりした。また指導・引率時間以外に、顧問教員と派遣指導者が指導方針等について打ち合わせをする時間を設定した。

●取組の成果、特に工夫した点等

・指導者に関しては生徒や保護者の不安を少しでも和らげるために、派遣指導者の一部で、既にボランティアで来ていただいている方を委託業者の団体に登録する形をとり、引き続き指導をお願いした。それによりほぼ全員が楽しく充実した活動ができたと感じているとアンケートで回答している。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要

- (1) 運営類型：総合型地域スポーツクラブ運営型
- (2) 運営主体：総合型地域スポーツクラブ
- (3) 種目：バスケットボール部 卓球部
- (4) 指導者の主な属性：総合型地域スポーツクラブから派遣
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：バスケットボール：月5回程度
卓球：月4回程度
- (6) 主な活動場所：中学校体育館
- (7) 主な移動手段：徒歩・自転車
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：徴収なし
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/年 指導者1,850円/年

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県平群町

●地域における現状・課題

- ・ 事業目的や趣旨、取組や活動内容等、学校部活動の今後について生徒や保護者、学校が正しく理解し進められることが肝要であることから、まずは、学校関係者（小中学校長・教頭及び教職員）への説明会やアンケートを実施し、教員の考え方や捉え方の理解に努めた。次年度は、生徒・保護者への啓発・理解に努める。
- ・ 新たな地域クラブ活動の取組・推進に取り組んだところ、予想以上に参加者が少なかった。学校部活動への依存度が高く、地域移行の目的の周知が課題である。

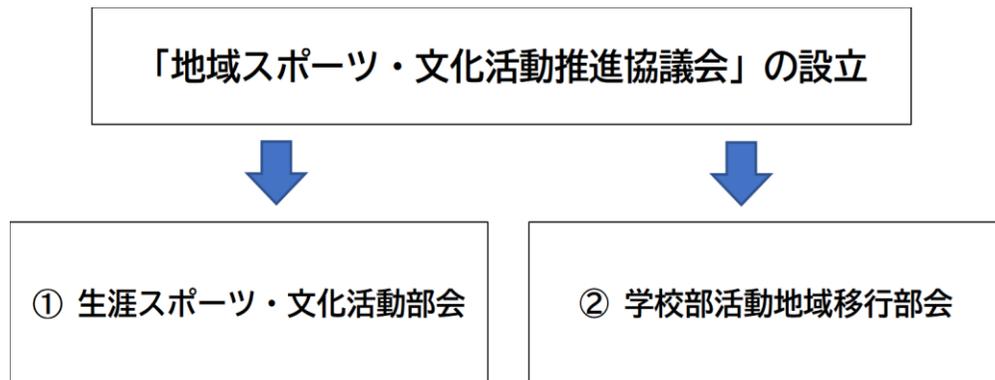
●取組事項の概要

- ・ R5.7.5 第1回「平群町地域スポーツ・文化活動推進協議会」を開設。学校部活動の地域移行化部会及び平群町生涯スポーツ・文化部会」の二つの柱建てにより、当事業の推進に取り組む。第2回目の協議会をR6.2.8に実施、今年度事業の検証及び評価、次年度以降の事業推進について協議を図った。
- ・ 学校部活動の地域移行は、中学校との相談の上、進めていく。
- ・ 地域クラブ活動（生涯スポーツ・文化活動部会）として、「ダンス（ヒップホップダンス）」及び「硬式テニス」の2種目を選定し取り組んだ。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・ 活動改革のチラシ及び呼びかけ文を中学校全校配布し、趣旨や目的の理解に努めた。
- ・ 地域クラブ活動の募集を追加で2回行った。特に3回目の募集の呼びかけ対象として、町内全戸数配布し、周知に努めた。
- ・ 地域クラブの先進地視察として「岐阜県白川町」を訪問、学校部活動の地域移行の在り方について情報交流を行った。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

○地域クラブ活動

ア.ダンス（R5.11月～R6.2月まで）合計7回

於：平群町総合文化センター（研修室） 参加生徒4名

イ.硬式テニス（R5.12月～R6.1月まで）合計5回

於：平群中央公園テニスコート 参加生徒2名

ウ.参加費はいずれも1回350円、

保険料包括型参加保険1回100円×参加日数

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県王寺町

●地域における現状・課題

王寺町には2校の義務教育学校があり、両校の生徒たちは積極的に熱心に部活動へ参加し、大会でも好成績を残している。しかし、年度により部員不足のため単独校で大会へ出場ができない部活動もある。また、保護者からのニーズは多種・多様で、例えば、新たな部活動の設立などの要望があり、それらに応えきれない場合もある。

地域移行に向けては多くの課題が山積している。例えば、保護者の金銭的な負担が課題の一つである。学校の部活動では、生徒の金銭的な負担は少ないが、学校外での活動となると負担増は避けられない。各家庭の経済状況も様々で、費用負担をすることが難しい家庭の子どもはどうするのかという問題もある。

●取組事項の概要

- ・月一回行われる定例教育委員会、校園長会、教頭・主任会、生徒指導連絡協議会などで教育委員会事務局と地域移行に向けて定期的に意見交換を行った。
- ・部活動顧問一人一人から地域移行に向けての希望や意見を聴取した。
- ・地域の方に指導を依頼し、合同練習会を開催した。

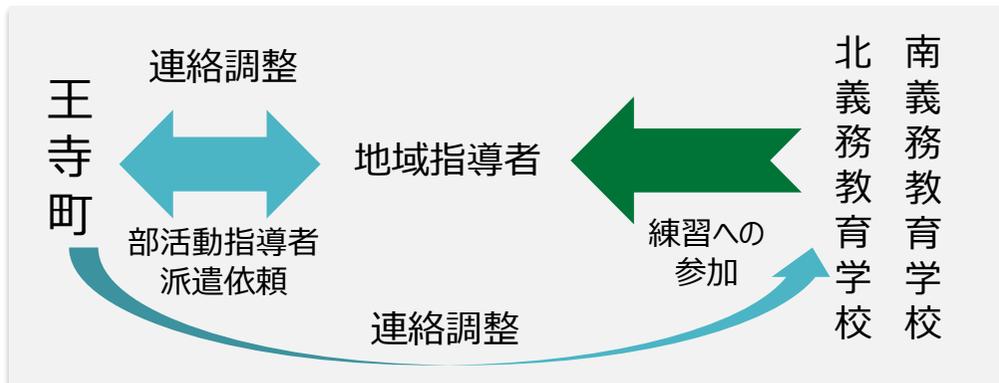
●取組の成果、特に工夫した点等

【指導者・顧問の感想】自校だけの部活動になると部員が少なく活気がない。合同で練習することにより、生徒も意欲的になり、効率よく練習ができたと思う。また、顧問の負担軽減になっている。是非とも継続した取り組みを希望する。顧問は卓球経験が無いため、是非とも継続した取組を希望する。生徒に技術指導をしてもらえるのはありがたい。生徒にとっても良いことだと思う。

【生徒の感想】技術的指導をたくさん受けれて良かったなど肯定的な意見が多かった。

【その他】初めての試みなので開催までに、実証事業の趣旨や生徒の移手段、安全管理などについて、指導者、顧問等と連携を図った。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村の運営による「地域団体・人材活用型」
- (2) 運営主体：王寺町教育委員会
- (3) 種目：卓球
- (4) 指導者の主な属性：地域住民
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：年3回
- (6) 主な活動場所：王寺北義務教育学校
- (7) 主な移手段：各家庭
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- (7) 1人あたりの保険料：0円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県河合町

●地域における現状・課題

- ・河合町の生徒数は、10年間で約120人減少し、今後も漸減傾向にある。その結果、チーム編成できず加入者も減り募集停止、廃部となった部活動があり、このまま現在の活動を維持、継続していくことは難しい。教員調査からは、休日の部活動指導について現状の改善を求める声が多く聞かれる。
- ・地域のスポーツ、文化団体等には地域移行について理解を得ているが、地域における指導者の発掘と質の確保が大きな課題となっている。

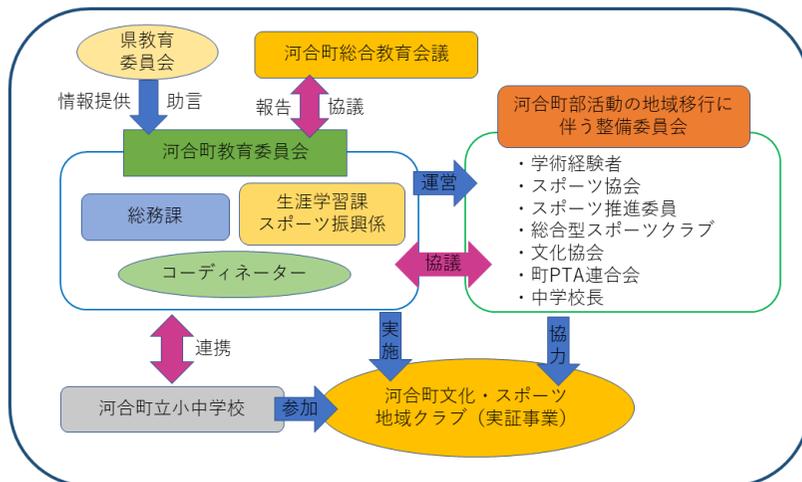
●取組事項の概要

- ・コーディネーターを配置し、各種関係機関と調整、連携を行い、地域移行の体制整備について協議、検討する「河合町部活動の地域移行に伴う整備委員会」を開催した。
- ・小中学生を対象に、「河合町地域クラブ・剣道スクール」を10～12月の土曜午前、計8回実施した。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・「地域移行に伴う整備委員会」を年間3回開催した。設置要綱を定めその役割を共通理解し、スポーツ、文化関連団体とともに町PTA連合会代表にも参加してもらい、今後について協議する土台ができた。
- ・「剣道スクール」には、小中連携の観点から小学校高学年の児童も募集した。参加は1名であったが、小中学生の交流や地域スポーツの体験の場となった。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：河合町教育委員会事務局
- (3) 種目：剣道
- (4) 指導者の主な属性：スポーツ少年団指導者・部活動外部指導員 教員（兼職・兼業）
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：3回
- (6) 主な活動場所：中学校武道場
- (7) 主な移動手段：徒歩・保護者の送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：無償
- (7) 1人あたりの保険料：児童・生徒800円／指導者1850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県吉野町

●地域における現状・課題

・吉野中学校には運動部5つ（野球部、バレーボール部、陸上部、水泳部、カヌー部）と文化部2つ（吹奏楽部、アート部）があり、各部活動に顧問2名を配置している。全ての教員がいずれかの部活動の顧問を担当しており、生徒数減少に伴い部員数も減少、活動維持継続が困難な状況となっている。顧問に経験がなく専門的な指導ができない部活もある。また、教員の長時間勤務が慢性化しており、ほとんどの教員が休養日である土日祝日等に部活動指導のために出勤している。

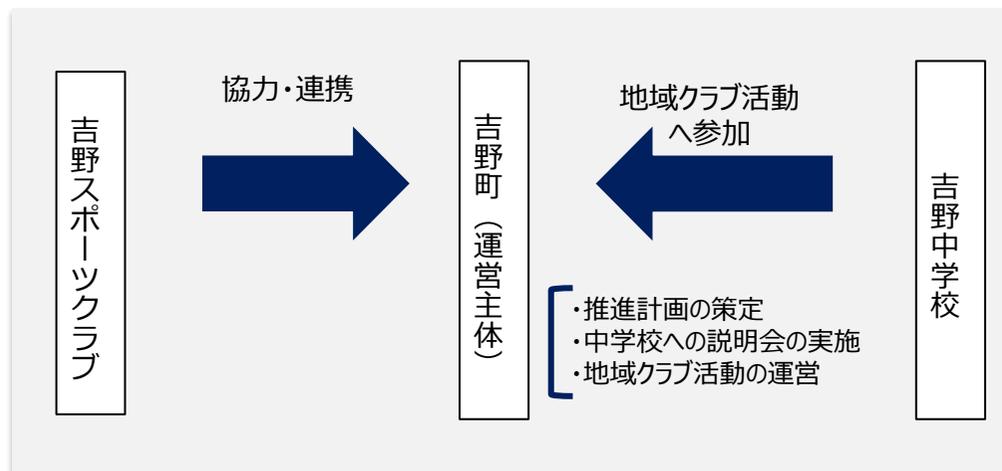
●取組事項の概要

・運動部5部活の内、部活動指導員が在籍しているバレーボール部の地域移行から取り組んだ。部活動指導員1名と部活OB1名を指導者として、2月に2回実施した。

●取組の成果、特に工夫した点等

・吉野スポーツクラブが主体となる地域クラブを目指したが、もともと多くの事業を抱えている現状などから組織のマンパワー不足が浮き彫りとなった。
・早い段階で保護者に吉野中学校の部活動の現状とこれからの地域移行の方針を説明する必要があると判断し、PTA総会時に時間をいただき、説明会を実施。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：吉野町教育委員会
- (3) 種目：バレーボール
- (4) 指導者の主な属性：部活動指導員ほか
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：年2回
- (6) 主な活動場所：学校体育館
- (7) 主な移動手段：なし
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：無償
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県大淀町

●地域における現状・課題

- ・大淀町の人口は16,297人で、本町における中学校は大淀中学校が唯一の学校であり、生徒数は363名、その内部活入部者は290名である。
- ・現在、大淀中学校では生徒や教師が減少傾向にあって、部員の減少及び部活動の指導には顧問とする種目の競技経験・指導経験のない教師が担当せざるを得ない状況が生じており、徐々に部活動を維持することが困難な状況になっているため、早期に地域移行への取組みを進める必要があった。

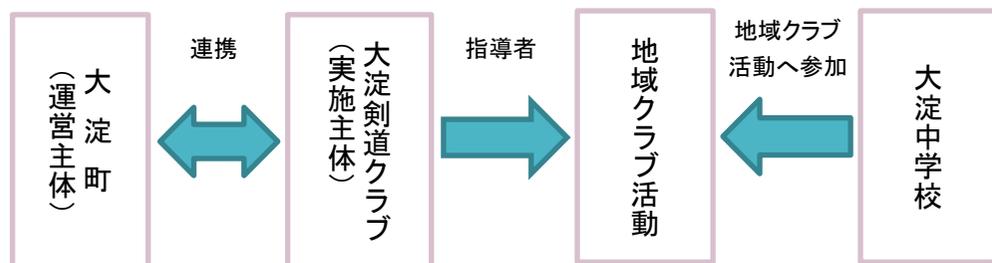
●取組事項の概要

- ・本町の地域移行におけるモデル的な取組みとして、学校運動部活動10種目ある内1種目（剣道）を選定し、その種目を活動する地域クラブへ休日の学校部活動（練習）を受け皿として依頼、土曜日の部活動について地域クラブの指導者（2名）からの指導となる。なお、活動場所は社会体育施設を使用する。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動において、生徒が不安なくスムーズに指導を受けることができるように、地域クラブ指導者と学校教師（顧問）が定期的（週1回程度）に参加状況や活動内容などについて互いに連絡を取りあうようにする。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：大淀町教育委員会事務局
- (3) 種目：剣道
- (4) 指導者の主な属性：地域クラブチーム関係者（指導者）
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：3回程度
- (6) 主な活動場所：町立桜ヶ丘体育館
- (7) 主な移動手段：保護者による送迎、徒歩
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：無
- (9) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

奈良県下市町

●地域における現状・課題

本町では現在、義務教育学校がひとつで少子化の流れの中、部活動の数も減少し、また参加生徒も少なくなってきており、今後において文化・スポーツを持続可能な活動としていく必要がある。

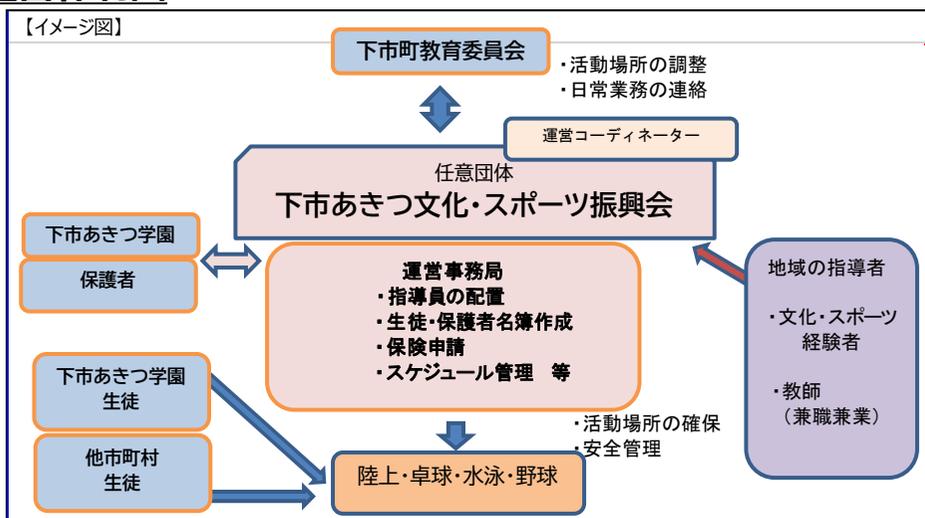
●取組事項の概要

教育委員会が、任意団体（下市あきつ文化・スポーツ振興会）を創設し、運営コーディネーターが指導員の調整、学校等との連絡調整等を行う。

●取組の成果、特に工夫した点等

運営コーディネーターを設置することで、日ごろの部活動の実態をつかむことができ、学校、部活動顧問との連携がとりやすくなった。
また、コーディネーターがすべてのクラブの様子を確認していたことから、各クラブ間の情報共有も容易に行うことができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市町村運営型（任意団体設立型）
- (2) 運営主体：下市あきつ文化・スポーツ振興会
- (3) 種目：陸上・卓球・水泳・野球
- (4) 指導者の主な属性：地域の指導者・兼職兼業の教員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：4回
- (6) 主な活動場所：下市あきつ学園
- (7) 主な移動手段：各自による
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：5,000円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒1,450円／指導者1,850円